

# 三水会会報

北里大学水産学部  
同窓会会報  
第 26 号

平成 5 年 8 月 31 日発行

編集者 大野良樹

発行 三水会（北里大学  
水産学部同窓会）

事務局 〒246 神奈川県横浜市瀬  
谷区瀬谷5-22-1石井方  
☎ 045-303-3135

振替口座 第一勧業銀行  
大手町支店  
008-1182388

「三陸20周年思いつくまま」（水産学部事務室事務長 外山智章）  
職場紹介①（株）冷水性高級魚養殖技術研究所（3A・佐々木喜代志）  
②「南国フィリピンに会社を設立して」（6F・桐原茂）  
「潜水部第2回OB会に参加して」（10A・八井田耕一）  
「関東地区親睦会に参加して」（6F・河村尚之）  
「平成5年度三水会総会開催」

## Information

※三水会セミナーの開催について

※同窓会名簿の発行について

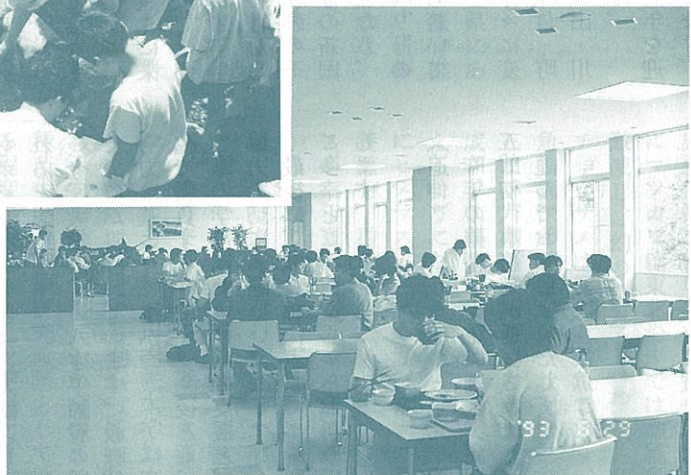
※三水会代議員の改選について

※“サンプルギフト”のご案内



関東地区親睦会  
(神奈川県津久井郡/道志川)

マリンホール内の食堂





## 「三陸二十周年思いつくまま」

水産学部事務室事務長 外山智章

昭和五十一年三月、「諸君との別れを惜しんで、名残の風が吹いています。」と松浦学部長が、「はなむけ」の言葉を贈った第一期の卒業から始まり、今春三月には第一八期生まで二、八四一名が三陸から巣立って行きました。

昭和四九年四月「大家が金を払わないので、大工が鍵を持って行き、部屋に入れません。晩飯はどうしたら良いですか」これが私の初仕事でした。更に六月には、学生の交通事故故死による葬儀の世話と続き、梅雨明けまでの薄ら寒さに加え、えらい所へ来てしまったと云うのが実感でした。

今ここに「未来への飛躍」と題した昭和四九年の大学祭プログラムがあります。警察に恐る恐る前夜祭の裸踊りの了解を得に行くと、「大船渡は不景気で町が沈滞しています。」「学生諸君に盛り上げてもらうよう頑張ってください。」「と所長に逆に激励される始末。早速、学生課長

の下村教授と酒の差し入れの相談、先生は八mmの撮影、小生はバスで学生諸君と同行、大船渡の帰り三陸トンネルを抜け三陸町に入った際の間を輝かせての拍手、歓声を聞いた瞬間から気分が一新し、三陸生活に落ち着きが出た事を思い出します。

それから二〇年、新幹線が盛岡まで開通し、当時南仙台までだった東北自動車道が完成、朝、盛へ行く夕方まで汽車のなかった国鉄盛線も三陸鉄道と名を替え今では一日一八往復も？する様になりましたし、今年三月からは、新三陸トンネルが貫通し、何とあの三陸峠を通らずに大船渡へ出られる様になり、更に、あの狭い林道が舗装され、二車線の立派な道路に生まれ変わり、崎浜銀座を通らずに学部まで直行出来る様になりました。

昨年には、吉浜湾を眼下に見る第五校舎（マリンホール）が完成し、学生諸君が、学生ホールで自動ピアノの演奏を聴きながら談笑している

光景が毎日見られる様になりました。これを見ると卒業生諸君は、何処で過ごしていたのか、今になって気になっているところですよ。

最近女子学生が年々増加し、平成四・五年共三一名ずつ入学し、キャンパスも華やかになって参りました。変わらないのは、新宿まで一時間の相模原から「思えば遠くに来たもんだ。」「桜がまだ咲いていないよ」の三陸に進級して来る新二年生の気持ちでしょうが、五年程前から「サンリク共和国」（銀河連邦の一員です。）大統領（町長）主催の新国民歓迎会が開催されるようになり、今年も六月四日に、「大漁踊り」の洗礼を受けてから大分、落ち着いて（あきらめて）来た様です。

この様に周辺の環境は、徐々に変化していますが、学生・教職員・町の人々の気持ちと三陸の海・山・川には変わりがないと思います。

北里学園には、勤続二〇周年を迎えますと永年勤続表彰があります。

教員では、井田、小林、佐藤、児玉、鈴木、厚田の諸先生方、職員では、千葉、中嶋、熊谷、米田、佐藤、刈谷、及川、菊地（名字の変った人もいます）の諸氏が表彰され、現在でも元気に活躍しておられます。

毎年の様に三陸に顔を見せられる卒業生がおられますが、皆さんも是非ご家族で三陸を第二の故里としてお訪ねください。大家のオッチャンもオバチャンもきつと大歓迎してくれると思います。

今、大学は、一八才年齢層の減少で危機が叫ばれています。教職員の努力は基よりですが、「大学は卒業生で勝負する」です。今後とも、皆さんの学部にたいするご支援と、ご協力を切にお願いいたします。

最後に、職員を代表して、皆様のご多幸とご活躍を心からお祈りいたします。

（追伸）

昨年の椿精一先生に続き、高橋吉五郎初代事務長が逝去されました。謹んでお知らせいたします。

## (株) 冷水性高級魚養殖技術研究所

佐々木 喜代志 (3A)



私が所属している(株)冷水性高級魚養殖技術研究所(サンロック)は、水産学部のある三陸町から北へ車で三十分程行った釜石市の平田地区(昨年夏に開催された三陸博覧会の跡地)にあります。この会社は暖水域で盛んに行われている養殖業を冷水域においても盛んにしようという案が、国の特別法人である「生研機構」の新規技術開発の出資案件として認められ、平成元年三月に発足した期限つき(平成七年三月まで)



の会社であります。出資者は、「生研機構」のほかに岩手県・釜石市などの地元自治体、岩手県漁連・釜石近隣の漁協や日本水産(株)・ニチモウ(株)・新日本製鐵(株)などの民間企業も出資者となっています。研究課題は、主なものとして種苗生産から成魚に至る間の養殖技術開発と養殖システムの開発であります。対象魚は、オホーツク海南部から常盤沖に分布するマツカワガレイ、北米太平洋河川のシロチョウザメ、北太平洋域に生息するベニザケ(本州湖産ヒメマスも含む)の三魚種を主力とし、ほかにカレイではホンガレイ、ババガレイを、チョウザメではベステル(アジア系の交配種)とコチョウザメなども研究を行っています。

私は平成三年九月に入社しましたが、それまでは大学院(魚類生理学・藤野研

究室)修了後、二年ほど三重県にある水産庁養殖研究所において無脊椎動物の細胞培養の研究を受け、研修後は「水産」とはあまり関連のない企業に就職しました。しかし、「水産」から離れても七年後に縁あってサンロックに入社し、また「水産」の世界に戻ることとなりました。

この会社の人員数は研究部十名、事務部二名の合計十二名ですが、研究部の内四名は出資企業からの出向者となっています。研究部の残り六名の中には北里の卒業生が私のほか二名おります。創立時からメンバーである山野目健さん(13期・井田研究室)と修士を終えられ、私の翌年に入社された徳嶋暢礼さん(15期・鈴木研究室)です。

サンロックの設立計画時に入居予定(平成三年度)であった「水産ハイテクセンター」の建設計画が凍結となり、平成四年初冬にそれまでの仮設実験所から現在地に引越して参りました。会社発足当初の二年間は

施設整備、親魚集めに費やされ、特にマツカワは東北沿岸では漁獲量が激減し、幻の魚とも言われ、シロチョウザメは保護対象魚であり、親魚の確保が困難という状況にありましたが、関係機関の協力により、平成三年前後から本格的な諸実験が行えるようになりました。平成二年秋にヒメマス(ベニの湖産系)の海中養殖を、種苗生産試験ではチョウザメが三年夏から、カレイ類は四年春からとなりましたが、それまでは種苗生産技術が確立しているサケ・マス類、ヒラメなどとは異なる試行錯誤がありました。その間、水産学部の諸先生方、特に川内先生・鈴木先生・最近では河原先生から様々な御教示を頂きました。おかげさまで、種苗生産は試験研究段階としてはある程度の数量がとれたと思います。現在は、種苗生産の安定性と養殖形態の追求を行っています。

特にカレイ類では、三陸沿岸で養殖上最適と考えられるマツカワについて、今年五月から釜石市の平田湾において自動給餌器による海中養殖試験を行っています。今の所良好な成長を示し、初冬の取り上げに期待が持たれます。

また、当社が初めてと思われる

## 〈職場紹介〉②

### 南国フィリピンに会社を設立して

桐原 茂 (6F)



が、マツカワの雌性発生試験に一応の成功を納め、種苗の全雌化試験を開始しました。チョウザメの方でも今年初めてシロチョウザメの採卵を行うことができ、この事も当社が日本初となります。ベニザケでは、昨年試験魚が導入され、海水適応能などの試験を、また、ヒメマスと比較しても海水に適応能・成長などが良好なシロヒメ(シロサケ雌×ヒメマス雄)の海中飼育も試みています。

サンロックは、前にも述べた通り平成七年三月で試験研究期間を終了し、その後は企業化の運びとなります。現在、各魚種について種苗生産ができるようになりましたが、技術的に不安定で解決を要する多くの課題があります。今後、残された研究期間を、北里の卒業生社員の一斉協力のもと課題に取り組んでいきたいと思っております。

最後に私事ですが、昨年三月に三十七才で結婚し、年末には長女に恵まれ、保育園の保育をしている妻と育児に追われる毎日を過ごしております。

六月中旬、突然、佐藤伊豆男君(6F)より、職場紹介の執筆オーダーがあり、ほとほと、困ってしまいました。というのも、文章を書くのが苦手の上、海外生活が長く(六年)、改まって書くことが久しぶりの(実は、佐藤君が、イカの重要なバィヤーであるため断れなかった?)ためでした。

一九八七年秋に、それまで、お世話になった車エビの養殖場を後にして、当時、比国(ミンドロ島)のブ



ラックタイガーの養殖で活躍されていた鶴田先輩(1F)。(タイ丸紅勤務)の所へわらじを脱ぎました。こは、まるで文明から見放された島で、人々は、犬や山羊、こうもり、はたまた、大とかげの類まで食していました。(私も。御相伴に預かりましたが、ただし、いつもではありません。以前は、ワニもいたが、食いつくしたとのこと。そして山には、ゲリラが潜み、裸賊が濶歩し、尾の生えた原住民が、呪いをかけるとのこと。このような島で毎晩、鶴田先輩とランバノグ(椰子の枝の汁から蒸留した強酒)を片手に、エビ談義を交わしたものでした。この場を借りて、鶴田先輩へ当時のお礼を申し上げます。

その後、紆余曲折あり、一九九〇年秋に社名O・R・C R E S T Y N G、(資本金約三千万円、従業員七十名、日本人三名、常駐私のみ)をマニラに設立し、現在に至っております。ロケ地は、マニラ市及び南の

ミンダナオ島のサンボアンガ市に水産加工場を展開しております。

業務内容は、マニラでは、生キハダマグロのロイン加工、空輸(日本、香港)及び市内のレストラン等への卸し販売。サンボアンガでは、モンゴ及びアオリイカのフィレー冷凍加工輸出(日本、台湾)。

その中で、私の仕事と言えば、全体の把握、すなわち、製品、施設及び経理のチェック、管理、従業員とのコミュニケーション、外国人との販売交渉等です。中でも、従業員とのコミュニケーションが最も手が掛かり、なおかつ、重要です。なぜかと申しますと、この国の人々は、日本同様、島国列島のため、地域が分断され、それぞれ言語及び性格が違いうこと。社内でも、英語は基より、タガログ、セブアノ、イロンゴ、サンボアンゲーニョ語等種々雑多。私は、タガログ語と英語でやっておりますが、とても、手に負えません。(ちなみに、私は、鹿児島県出身で

## 潜水部OB会第二回総会に出席して

八井田 耕一（一〇A）

す。）

その上、生まれつき、ナマケ者の人種ですので、どうやってみんなに仕事をやらせるか、日々、悩んでおります。住民と友人になることは容易なことですが、ビジネスとして、会社の上司として、経営のパートナーとして接することは、非常に気を使います。今日の御時勢ですので、やもすると、反日感情から、国際問題になりかねないので、常日頃から地域に密着しながらも、日本人の心構えを忘れずに、国際貢献を担っているつもりです。

また、年内には、インドネシアへ拠点を設けて、マグロ等の水産物輸出にも、乗り出す予定です。食品関係の方、よろしく御指導お願いいたします。みなさん、一度お気軽にお越しください。

最後に、この仕事を始めて三年、やっと、遥か彼方に小さな島が見えてきたかどうか、という所ですが、ここまで来れたのも、いつも心の柱になっていた故今井明君（6F）のお蔭でした。彼が、この国の良さ、悪さ、そして怖さを教えてくれました。この紙面を今一度借りて、御冥福を祈らせていただきます。



潜水部OB会（会長・伴圭司＝一期生）は去る六月二十六日、東京都中央区の鉄鋼会館で第二回総会を開きました。当日の参加者は二十二名、会員が百四十名もいることから考えると少々寂しい人数ですが、昨年六月に発足してまだ一年弱を過ぎたばかりの会としてはまずまずと言えるところだと思います。

実際OB会の趣旨に賛同してくださる会員は多く、遠方に住む方々を中心に三十一通の委任状が集まりました。

前期の活動報告では、ことし五月に創刊した会報の発行作業を含め、一部の会員に負担が集中した事などを報告しました。

今年度活動案の議事では①第三回総会の開催②引き続き会報を発行すること③編集委員を一名から三名に増員すること④ダイビングを含む親睦会を実施すること——などを提案、満場一致で可決されました。

一方、最後に行った質疑応答では、特別参加した現役部員から、部の現状について、新入部員が集まりにくくなっているとの報告がありました。卒業後に部の状況を知る機会の少なかったOBからは驚きの声が出るとともに、その原因に対する質問と、解決案などが次々と出ました。また、現役の活動に対する保険に関するの討議なども行なわれました。

これらの問題については予定時間を大幅に延長して話し合いを行なったものの、残念ながら当日は結論を出すまでには至りませんでした。今年度からの課題として今後も引き

続き検討することが決まりました。

総会後は懇親会を行い、更に二次会、三次会も行いました。

さて、話が前後しますが、当OB会は「現役部員を少しでも支援する」とともに、卒業生間の交流をより深めることで、プライベートでも、仕事面でも、大きなメリットが生まれるようにしよう」という方針を旨として昨年六月に発足しました。

発足して間もないことから、財務面を含めて基盤が脆弱であることは否めません。しかし、今回の総会の真剣な討議からOB会に対する強い期待を参加者から感じる事ができました。会の発足から尽力したOBらをはじめ、多くの皆様がこの場を借りて心から感謝いたします。

今回および前回総会の参加者と委任状を送って頂いたOB、顧問になつていただいた井田教授、三水会事務局の方々、本当にありがとうございます。今後とも皆様のご協力をお願いいたします。

なおOBの中には宛先不明のため郵便が戻ってくる方が五名ほどいます。また、総会のお知らせに対する返信がない方も大勢います。お手数ですが、連絡の届いていない方は是非次の宛先までご連絡ください。

## 平成四年度三水会関東地区親睦会に参加して

川村 尚之(6F)

去る七月三十一日神奈川県津久井郡道志川畔にて、関東地区親睦会が開催されました。今回は昨年の簀立て網漁から趣を変え津久井山系の間を流れる清流道志川で鱒釣りを中心としたもので、楽しい一日を過ごす事ができました。

当日は悪天候続きの丁度中休み? 素晴らしい空模様でした。集合場所は、中央自動車道の相模湖インターチェンジ下車約三十分の旅館で午前八時より受付開始となりました。東京方面からの交通事情が若干悪かったものの九時過ぎには参加者の多くは家族連れで集まり早々に釣りの開始としたかったものの、前日までの雨による増水で準備に多少の時間を必要とした為十時過ぎのスタートとなりました。

とにかく我々も所定の釣場へ移動して魚との悪戦苦闘が始まりました。そしてしばらく経過するとお子様部門のつかみ取りが開始となり、年齢

制限を設け三才以下から十才以上までの四つのコースでは子供達の我を忘れ夢中に鱒つかみに没頭している姿を見て我々自身の子供の頃を思い出す次第でした。

そして、魚との悪戦苦闘の中、時計を見ればもう正午を過ぎており、旅館に戻り昼食となりました。

晴天の中、川の細流を聞きながらの食事は格別のうまさで、その中でも某養鱒場特製の甘露煮は美味中の美味であったと感じられました。

昼食後は旅館の大広間で動物写真家、中川雄三氏の富士山の自然をテーマにスライドを交えての講演が始まり、約一時間程度の講演でしたが持参されたスライド一〇〇枚が全て自分で撮影されたものであったのには驚かされました。

この頃には子供達は、はしゃぎ過ぎたのか、お昼寝タイムとなりました。最後に大人も子供も午前中の成績

による表彰式が行なわれ各人賞品を手し、ある人は家路に、また、ある人は再び釣場へと向いました。

天候にも恵まれ、今回の親睦会を無事に終え、ふり返ればこの日は我々会員一人一人にとって大変有意

## 「平成五年度三水会総会開催」

去る五月十六日(日)午前十一時

より、白金校舎会議室において、平成五年度本会通常総会が開催され、本年度の事業計画、予算等が審議、決定されました。総会は、代議員本人二人、委任状出席十四人の計三十六人の出席のもと開催され、四年度事業報告、決算についての報告を受け、これを承認した後、会報の発行、三水会セミナーの開催等を内容とする平成五年度事業計画、予算案について協議を行い、原案どおりこれを承認しました。総会において承認された昨年度の決算、本年度の事業計画・予算は次のとおりです。

義な一日でありました。次回も多く会員の参加でより楽しみな親睦会が開けますように期待しております。主催者の皆様、大変有難うございました。

同窓会の動向、学部の実況、各種の情報等を内容とした会報を二回発行する。

二、「水産学部だより」の配布  
本学水産学部の発行する「水産学部だより」増刷し、全会員に配布する。

三、会員の現況の把握  
全学同窓会と連携し、不明会員の調査等名簿情報の正確性の向上に努力める。また、本年度は全学同窓会の名簿発行年度に当たることから必要な協力をを行う。

四、同期会等助成  
同期会、講座別同窓会等卒業生の集会の費用の一部を助成する。

五、三水会セミナーの開催  
水産を問わず様々なテーマをとりあげ、これに関連する職域の会

## 《平成五年度事業計画》

### 一、会報の発行

## 平成 4 年度 収支決算

支 出 の 部			収 入 の 部		
科 目	予 算	決 算	科 目	予 算	決 算
1. 事業費	3,250,000	4,206,896	1. 部会助成金	4,757,219	4,757,219
(1) 会報発行費	1,000,000	955,560	2. 前年度繰越金	1,031,982	1,031,982
(2) 学部だより配付費	150,000	152,955	3. 預金利息	100,000	123,339
(3) 同期会等助成費	150,000	144,000	4. 雑収	250,000	1,129,000
(4) 親睦会費	850,000	1,022,853	5. 1～7期生終身会費	100,000	0
(5) 大学・学生との懇談会費	250,000	287,220			
(6) 学友会助成費	250,000	250,000			
(7) 就職ガイダンス費	100,000	88,780			
(8) 漁船海難遺児育英会寄付	100,000	100,000			
(9) 全学同窓会後援会関係費	400,000	1,205,528			
2. 運営費	1,950,000	1,779,279			
(1) 印刷・通信費	250,000	222,065			
(2) 会議費	350,000	317,857			
(3) 総会費	250,000	116,772			
(4) 事務局費	950,000	950,421			
(5) 慶弔費	50,000	105,750			
(6) 外渉費	100,000	66,414			
3. 予備費	1,039,201	1,055,365			
(1) 予備費支出金					
(2) 次期繰越金		1,055,365			
合 計	6,239,201	7,041,540	合 計	6,239,201	7,041,540

注) 事業費「(9)全学同窓会講演会関係費」の処理については、予算策定時は全学同窓会負担分(80万円)を差引いた額で計上したが、全学同窓会との協議の結果、支出総額を本会計で計上し、全学同窓会負担額を雑収入で受け入れることになった。これにより、予算と実績の差が大きくなっている。

## 平成 5 年度 予算

支 出 の 部		収 入 の 部	
科 目	予 算 額	科 目	予 算 額
1. 事業費	3,110,000	1. 部会助成金	4,225,238
(1) 会報発行費	1,050,000	2. 前年度繰越金	1,055,365
(2) 学部だより配布費	160,000	3. 預金利息	100,000
(3) 同期会等助成費	150,000	4. 雑収入	250,000
(4) セミナー開催費	400,000		
(5) 親睦会費	650,000		
(6) 大学・学生懇談会費	250,000		
(7) 学友会助成費	250,000		
(8) 就職ガイダンス費	100,000		
(9) 漁船海難遺児育英会寄付	100,000		
2. 運営費	1,900,000		
(1) 印刷・通信費	250,000		
(2) 会議費	350,000		
(3) 総会費	200,000		
(5) 慶弔費	50,000		
(6) 外渉費	100,000		
3. 予備費	620,603		
合 計	5,630,603	合 計	5,630,603

員を対象としたセミナー形式の会  
を開催する。  
六、親睦会の開催  
関東地区会員を主な対象とした  
親睦会を開催する。

七、懇談会の開催  
大学、水産学部在学生との懇談  
会を開催し意見交換を行う。  
八、学友会助成  
クラブの活動費および大学祭、

九、就職ガイダンスの開催  
体育祭費用の一部を助成する。  
各分野の卒業生による就職ガイ  
ダンスを水産学部生を対象に三陸  
校舎にて行なう。

十、漁船海難遺児育英会寄付  
漁船海難等により親を亡くした  
子弟に学費の援助を行っている漁  
船海難遺児育英会に対し寄付を行  
う。

## From 事務局

### 三水会セミナーの開催

三水会では、様々なテーマをとりあげ、これに関連する職域の会員を対象としたセミナー形式の会を開催しておりますが、今回は生化学分野での国際的な賞である「シャラー・バーグマン賞」を受賞された水産利用学講座の川内教授に講師をお願いし、受賞テーマである「魚類の脳下垂体ホルモンの研究」についてご講演をいただきます。水産利用学講座の卒業生のみならず、テーマに関連する幅広い分野の会員の参加をお待ちしております。なお、講演会終了後、会場を移して近くの「羽沢ガーデン」でガーデンバーベキューパーティーを開催いたします。三陸の思い出話等で旧交を温められてはいかがでしょうか。参加を希望される方は同封の葉書に、住所、氏名（卒業年）、連絡先電話番号を記入され事務局あてお申し込みください、詳しいご案内をさしあげます（FAXも可）。

開催日時：平成5年10月9日（土）〈講演会〉15:00～16:30 〈懇親会〉17:00～19:30

開催場所：〈講演会〉北里本館2階大会議室（白金校舎 港区白金5-9-1）

〈懇親会〉「羽沢ガーデン」（渋谷区広尾3-12-15 Tel 03-3400-2013）

講師：水産利用学講座 川内浩司教授

テーマ：「魚類の脳下垂体ホルモンの研究—国際研究センターめざして—」

### 三水会代議員の改選について—一代議員推薦のお願い—

早いもので前回の改選から3年近くが経ち、来年度総会において、代議員・役員が改選が行われます。つきましては、代議員の推薦（自薦・他薦）を下記により受けつけますので、同封の葉書に、氏名、卒業生、学科、卒論講座名、住所、連絡先電話番号、他薦の場合は推薦者名をご記入のうえ事務局あてお送りください。

代議員資格：三水会正会員

推薦受付期限：平成6年3月末

三水会事務局：〒246 横浜市瀬谷区瀬谷5-22-1 Tel・FAX 045-303-3135

### 同窓会名簿の発行について

全学同窓会の名簿が5年ぶりに発行されます。前回は学部別の分冊でしたが、今回は6学部全ての会員の名簿が記載されます。詳しくは全学同窓会会報に掲載されますので、御覧のうえ是非お申し込みください。なお、価格は送料を含めて1冊2千円です。

## From 三陸町

### “サンフルギフト”のご案内

毎号ご好評を得ております三陸の味「サンフルギフト」を、三陸町の第3セクター「三陸町ふるさと振興株式会社（愛称＝サンフル）」が三水会会員の皆さんにお届けします。鮭、ホタテ、ワカメ、鹿肉等取り揃えておりますので、ギフトに、また、ご自宅用には是非お申し込みください。お申し込みは同封の葉書でお願いします。（FAXも可）。

問合せ先：「三陸町ふるさと振興株」 気仙郡三陸町越喜来字所通21-18

TEL 0192-44-3241 FAX 0192-44-2883

## From 会員

### 病理学研究室OB会のお知らせ

病理OB会は、小林先生のご都合により、来春に開催する予定になりました。詳細は改めてお案内致します（3A・長谷川一敏）